

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 069	提案機関名 湘南地域県政総合センター
要望問題名 抗菌性飼料添加物を使用しない家畜飼育技術の確立、普及について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 平成28年4月に策定された薬剤耐性対策（AMR）アクションプランにより、畜産分野においては抗菌性物質の慎重使用を推進するとされている。 その中で、抗菌性の飼料添加物については国内では食品安全委員会のリスク評価を受けて硫酸コリスチン、バージニアマイシンの飼料添加物としての指定が取り消される見通しである。また海外の状況を見るとEUでは抗菌性飼料添加物の全面禁止、米国においても医療上重要な飼料添加物については獣医師が関与する仕組みに変更されており、抗菌性飼料添加物の使用については今後も使用が制限されていく可能性がある。 そこでAMRアクションプランの推進、及びオリ・パラ、インバウンドを見据えた国際的な標準の畜産物の生産、普及のため、現在抗菌性飼料添加物を使用している生産者が取り組めるような抗菌性飼料添加物を使用しない家畜（主に養豚、養鶏）飼育技術の確立、普及を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 抗菌性飼料添加物は一般に流通している幼畜用飼料に含まれており、鶏では幼すう育成用配合飼料、中すう育成用配合飼料、豚では餌付け用配合飼料に含まれています。 抗菌性飼料添加物を使用しない鶏肉生産については、他県で検討されており、枯草菌を添加した無投薬飼育は抗菌性飼料添加物の代替として実用性価値の高いことが示されています。また、同じく他県の試験から離乳前後の子豚に枯草菌製剤を添加した飼料を給与することで、良好な影響があることも示唆されています。 この問題は全国的な課題なので、機会を捉えて国に要望していきます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 生菌剤を添加した無投薬飼育が名古屋種の生産性および免疫能に及ぼす影響（2009 愛知県農総試研報） 離乳前後の子豚における枯草菌製剤の給与効果(2015 千葉県畜産総合研究センター研究報告)			